

おばた る み こ
小幡 留美子 さん

母親の暮らす鹿児島へ1ターンし、現在はさまざまな地域活動へ積極的に参加している小幡さん。移住のきっかけや地域での活動についてお話を伺いました。

ボランティア活動や地域活動をはじめたきっかけ

在宅福祉アドバイザーとしての活動をきっかけに、地域でサロンを立ち上げ、公民館での体操教室を始めました。現在、校区社協の会長として地域活動に関わる中で自助や公助も大切ですが「地域の助け合いである共助」が重要であると感じます。私自身、人の世話をすることが好きで誰かの役に立ちたいという思いがあります。自分にできることは地域に返していきたい。小さな幸せや何気ない日常を大切にしたい。そんな思いで、ボランティア活動や地域活動に関わっています。

地域活動と家庭の両立で意識していることはありますか。

私の活動に対して夫は理解してくれています。お互いに楽しみや好きなことを大事にして、ストレスをためないようになっています。母は私が出かけると不安になることもあるようですが、母が一人でいられるお陰で私が外で動いていることを伝えると、渋々でもうなずいて送りだしてくれます。

地域活動で大切にしていることや、伝えたいことはありますか。

地域での見守り活動として、年に数回、100食程度のお弁当を作ったり、多世代交流の一環として小学校でのコンサートなどを開催しています。一人ではできないことも声をかければみんなが手伝ってくれるので「地域には力がある」と感じています。今は成り立っていることも今、行動しなければ5年後、10年後はどうなるか分かりません。地域や近所で助け合うことを大切にしていきたいです。

今後の目標は

今年101歳になる母をできる限り、さいごまで自宅でみることです。お互いに言いたいことを言うので、ぶつかってしまうこともあります。言い過ぎた後は、言葉ではうまく伝えられないこともあります。が、お風呂の後に母の足や指をマッサージすることで、自然とコミュニケーションが取れて、気持ちを伝え合うことができているのかなと思っています。



「誰かの役に立ちたい」そんな思いで日々を過ごされ、地域活動にも積極的に参加される小幡さん。

「できることを・できる人が・できる時に」をモットーにこれから活動していきたいと明るく話してくださいました。

【今回取材した

県男女共同参画地域推進員】

・島子正一郎・牧之瀬千保子
・瀬戸口恵理・脇俊子
・久保久美子・佐野愛子